# 学位請求論文要旨

## 婚姻パターンの推移の原因の分析

### ――学歴男女格差の逆転が生じる背景――

専　攻：現代経済専攻
学籍番号：2021M20002
氏　名：鄭　朝尹

近年、多くの国々で大学進学率において女性が男性を上回る、学歴男女差の逆転が観察される。男性に比べ女性のほうの大学進学率が高いため、大卒女性が大卒男性を上回る。そのため人口比として高学歴女性と低学歴男性の婚姻が起きやすくなっていると考えられる。しかがしながら、女性の労働参加率や賃金は高くなってきたとはいえ、いずれも男性より低い。それにも関わらず、なぜ女性の大学進学率は男性よりも高いのだろうか。このことは人的資本理論による大学進学行動の説明に反する。本稿では、女性の大学進学することによる結婚プレミアムが男性よりも高くなったのではないかとの仮説を検討する。そのために、観察されている学歴男女格差逆転現象が起きている原因を理論的に分析する。また、結婚パターンが変化した理由を説明する。

経済理論の先駆的研究である Becker(1973,1974)では、男女が結婚によって自身の効用が改善するときに結婚すると考えている。男女はそれぞれ異なる属性をもっており、男女の組み合わせによって結婚後の各自の効用は異なる。男女は、それぞれ最も良い結婚相手を見つけるよう探索を行う。経済学では結婚をこのようにとらえ、結婚マッチングの研究がすすめられている。結婚マッチングを分析する枠組みとして結婚市場に摩擦がないと想定する安定的マッチングモデルの枠組みや結婚市場に摩擦があると想定するサーチモデルの枠組みなどがある。

本稿では安定マッチングモデル(Stable Matching with Transferable Utilities)と、結婚市場には摩擦があると想定するランダムマッチングモデルを使用する。安定的マッチングモデルは、マッチングの過程で、結婚前に結婚後の資源配分の競争的な調整、つまり効用の移転が行われることを想定している。これによって、安定的マッチングモデルにおいては、同一の属性をもつ者の結婚後の効用は、結婚相手とは独立に決定される。ランダムマッチングモデルでは、結婚前に効用移転を伴う家庭内配分の調整が行われないため、同一属性を持つ者の結婚後の効用は、結婚相手によって異なる。この 2 つの枠組みで、学歴男女格差

の逆転が生じる原因を分析するとともに、その背景としての婚姻パターンの変化についても検討する。

婚姻パターンは、「同類婚」(homogamy)と「異類婚」(heterogamy)に分けることができる。同類婚は、学歴・収入・年齢といった属性が同質な男女が結婚することである。逆に、異類婚は、属性が異なる男女が結婚することである。異類婚には、男性が女性よりも学歴・収入・年齢などが上回る伝統的な異類婚である「伝統婚」と、逆に女性が上回る非伝統的な異類婚である「非伝統婚」がある。同類婚は依然として社会の主流であり、夫婦の半数以上が教育、社会階級、収入が同じレベルで配偶者を見つけている(馬磊,2015)。学歴の男女差が逆転すると、男性と女性の両方が配偶者の好みを変える可能性があり、男性は女性の市場労働能力にもっと注意を払い、女性も男性の家事能力にもっと注意を払うようになる(Van Bavel et al., 2018)。非伝統婚（学歴）の増加は、主に現代女性の高学歴化によるものである。

人的資本理論では、大学進学行動を進学による賃金上昇を収益とした投資行動としてとらえる。この考え方にもとづくと、女性が依然として男性よりも大幅に収入が少ないという事実を考えると、現在、女性が平均して男性よりわずかに高学歴であるという事実は驚くべきことのように思われる。ただし、教育への投資について、重要な問題は、男女の賃金格差が教育によって増加するか減少するか、つまり、女性が教育からより高いリターンを受け取るかどうかである。男女の賃金格差が学校教育によって縮小するという証拠がある(Dougherty, 2005)。しかがしながら、女性の労働参加率や賃金は高くなってきたとはいえ、いずれも男性より低い(Albanesi & Prados,2022)。それにも関わらず、なぜ女性の大学進学率は男性よりも高いのだろうか。

本稿では、女性の大学進学率が男性よりも高いのは、大卒となることによって、相対的に女性のほうが男性より、結婚で有利に働くことに原因を求める。すなわち大学進学するか否かを決定する際に、労働市場における労働大卒プレミアム（大卒者と高卒者の賃金格差）だけではなく、結婚大卒プレミアム（大卒者と高卒者の結婚ペイオフの差）を考慮する。このように大学進学意思決定について、結婚大卒プレミアムを考慮した分析としてChiappori et. al. (2009,2017)、Zhang (2021)などがある。

本稿では、男女の進学による結婚プレミアムの違いを、安定的マッチングモデルの枠組みで分析をしている既存研究とは異なり、ランダムマッチングモデルの枠組みで検討する。また結婚後の夫婦間における家庭内資源配分を明示的に考慮する。このモデルを

用いて、女性が進学することによる結婚プレミアムがなぜ男性よりも大きくなることがあるのかを分析する。